



学友会 会報

第23号

発行 中日本自動車短期大学学友会事務局

〒505-0077 岐阜県加茂郡坂祝町深萱1301
TEL<0574>26-7121 FAX<0574>26-0840

URL ▶ <http://www.nakanihon.ac.jp/gakuyu/> E-mail ▶ gakuyukai@nakanihon.ac.jp

中日本自動車短期大学学友会35周年記念事業 北海道一周ソーラーカーの旅

昨年、学友会は35周年を迎え、その記念事業として北海道をソーラーカーで走行するという企画が行われました。その結果を報告します。

まず、ソーラーカーは学生達によって5月から7月の3ヶ月間で製作されました。北海道では公道を走行するため、完成した後、坂祝町役場にてミニカーのナンバー(坂祝)を取得しました。

北海道を走行した期間は8月10日(日)から8月24日(日)の15日間で、走行ルートは小樽をスタートし、時計回りに海岸線を一周し、小樽に戻るコースです。

初日は前日までの台風10号の影響のため、雨が時折降っていました。ソーラーカーにとっては良い天候とはいえません。太陽電池からの充電が思うように行われず初日から予定していた距離を走行できませんでした。2日目以降も天候には恵まれず、思うようには走行

できませんでした。そのため、予備のバッテリーも使用して走行しました。

走行中は、夏休みということもあり、多くの観光客に出会うことができました。ソーラーカーについて質問もいただきました。また、多くのメディアの方にも取り上げてもらえることができました。このような事がスタッフの励みとなり無事走行を終えることができました。

終わってみると北海道一周2312・5kmを走行することができました。この企画に参加した学生がこの体験を活かし、今後活躍してくれることを願っています。

最後になりましたが、この企画を主催した学友会、共催・協賛していただいた関係者各位に心より厚く御礼申し上げます。



取得したナンバープレート



ただ今、充電中...



真夏の海岸線を走る

会報発刊にあたって

中日本自動車短期大学 学友会会長

丹地 章 夫



本年も会報発刊の時期となりました。会員の皆様方には、ますます

ご健勝で活躍のごこと、お慶び申し上げます。平成15年度の事業計画も、順調に実施されており、ここに報告申し上げます。

さて、前号でも触れましたとおり、15年8月、学友会主催による「北海道一周ソーラーカーの旅」が実施されました。

出発日はあいにくの雨模様でしたが、予定どおり出発。台風通過のため悪天候に悩まされながらも走行ではありましたが、学生の皆さん、指導の先生方のご努力により、後半には晴天に恵まれ、大きな達成感とともにゴールすることができました。

途中、地元メディアの取材もあり、地元の方々の応援も受けながら、このイベントを成功させることができました。すべての人々に感謝です。中日本自動車短大の名を、より多くの方々に知っていただく良い機会にもなると確信しております。

また、15年度の学友会総会が金沢での移動総会となりました。久々の移動総会であり、地元会員の方々にも数多く出席していただきました。

(執行部) 役員の変更も多少あり、新しい体制で、新しい気持ちでのスタートを確認し合いました。皆さんも、近くで総会のあるときは是非ご出席をーそして新しい力をもらってください。

さて、これまで幾度となく申し上げてまいりましたように、中日本自動車短大も入学者数減という厳しい現状です。学生募集に対し、会員の皆様の一層のご協力、ご支援をより一層のお願い申し上げます。詳細(同窓生推薦)につきましては、学友会事務局までお問い合わせ下さい。

また、卒業生の就職に関しても、皆様のお力添えを重ねてお願いいたします。

最後になりましたが、今回の会報発刊にあたり、多大なご協力、ご援助を賜りました大学関係者並びにOB諸兄に対しまして、心より厚くお礼申し上げます。

ご挨拶

中日本自動車短期大学
学 長 脇 俊 隆



学友会会員の皆様、お変わりございませんか。毎日、お元気で活躍のこととお慶び申し上げます。

本学は、開学以来37年自動車技術者教育を着実に進めてきました。そして現在なお進化を続けています。今年度は従来の2級養成課程を更に発展させる教育課程として1級整備士養成課程を開設し本学の教育課程が一層充実することとなりました。

また、国際交流の一助を担う正規留学生の受入、短期研修生及び短期交換留学生の受入も熱心に進められ、国際交流が活発に行われています。

このように本学では、社会に求められ、評価される教育を目指して教職員一同、大学創りに励んでいます。

ところで、今短期大学は、皆さんご存じのように大変厳しい環境下にあります。その主たるものは、以下のものです。

- 1、18歳人口の減少に伴う学生確保の困難さ
- 2、就職環境の悪化に伴う就職先確保の困難さ
- 3、第三者評価による適格評価の義務化

この事項を適切に解決するには、内部構成員（大学構成員・組織）の一層の努力と外部協力者のご協力とご支援が不可欠であります。

とりわけ右記事項の1、2は、学友の皆様が力添えが鍵になります。是非とも皆様に入学希望者紹介と就職先情報の提供をお願い申し上げます。

最後に、皆さんが岐阜に立ち寄られる機会があれば、是非大学にも足を伸ばして頂き学んだ学舎を見ながら暫し学生時代を思い起こし大学の成長ぶりを見ていただくことを願っています。また、皆さんが日々健康で過ごされることを心から祈念してご挨拶と致します。

一級自動車整備士課程スタート

中日本自動車短期大学
事務局 長 出口 達 也



学友会の皆様、日頃は多大なご支援をいただき、有難く厚く御礼申し上げます。

今年度より一級自動車整備士養成課程がいよいよスタートいたしました。これはこれからの自動車の整備資格が変わるといって、社会の流れに対応して設置したものです。

全国に自動車整備士を養成する短大が八校ありますが、大部分の学校がこの一級整備士の課程を昨年から今年度にかけて設置しています。

この課程の補完として、一級整備士養成専用実習場を9号館の東側に増築いたします。

規模は鉄骨2階建、延べ床面積は1525平米になります。既に着工していますので、9月の中旬には皆様方に完成した姿をご披露できる予定でございます。

設備は小型自動車のリフト4基、中型車リフト1基を設置します、備品関係に関しては壁面に収

納が出来るという設計になっております。なお2階へは必要に応じてホイストクレーンで実習車を10台搬入することが可能です。

設備や教育内容の充実は次の学生募集や就職のためにもどうしても必要なものであること、学生が次を目指す目標になると考えております。

18歳人口の減少については、否応なしに動いていきます。その中で募集定員を確保するには、地味な努力もさることながら、時代のトレンドには付いていかななくてはなりません。

また別に学生から希望の多い、専攻科車体整備の定員も今年度から40名と倍増しました。このため実習場の増設も一級課程と同時進行でやっており同時期に完成する予定です。

このよつなことから、私共は学内で常に何かが起きているという動きをしていくように心がけておりますので学友会のみならずおかれましてはご支援よろしくお願ひ申し上げます。

新任教員



寺尾 裕 二さん

学友会の皆様、私は昭和57年に本学を卒業以来22年間勤めた愛知県内の日産ディーラーを退職し、今年度からは、教員として再び本学にお世話になることとなりました。

まだまだ学内規定や人事のことなどわからないことが多く戸惑うことがありますが、早く慣れ本学の教員として「一人前である」と認められるよう頑張っています。

ディーラー勤務中にはメカニックとしての様々な技術を習得し、数多くの難解修理も経験してきたほか、フロント業務やサービス本部にて社員育成のための教育・指導も行ってきました。また、出向で日産の自動車工業専門学校におきまして4年間講師を務めました。

これらの経験を活かし、後輩たちを自動車業界で即戦力となり得る卒業生として社会に送り出せるよう努力していきます。またそのことが私を本学の教員として採用してくださった方々や先輩の先生方の期待に応えることであると思っております。

最後に、学友会の皆様の益々のご活躍とご繁栄を祈念申し上げます。



可知陽之郎さん

本学を卒業して以来12年という歳月が流れました。皆様いかがお過ごしですか。

平成4年に今の新岐阜マツダ販売株式会社に入社いたしました。自動車板金及び整備に汗を流してまいりました。当時はバブル経済が終息に入り始めた時期でした。そんな中、このころと板金技術に磨きをかけてまいりましたが職人技と言われる技術だけに、どこまで行っても奥深い世界がありました。そんな思いの中、過ごしてまいりました。本学が本年度より車体整備専攻科の定員を増やすということで、それに伴い教職の募集がありましたので、また本学に帰ってくる事ができました。

実際にこの仕事を始めてみると、今までの板金とは違った角度、教育という観点から見ただけでもなかつたし、また感覚的なものを言葉で伝える難しさに少し戸惑いを覚えることもありましたが、学生(後輩)達の学ぼうとする姿勢を見ると、まだまだ勉強不足の私の経験と知識の中からでも、少しでも多く伝えていきたいという気持ちになりました。
心機一転、勉強し直すことも、またここで青春の光を取り戻したいと思えます。

こんな私ですが、切磋琢磨し努力していきたいと思えますので、よろしく願いいたします。

在学生より



専攻科
自動車工学専攻
松本 芳和さん

私はNACの本科を卒業し、1級整備士の国家試験合格を目指して、専攻科に入学しました。すでに全国で1級に合格された方もいて、今後は1級整備士が一般的になり、1級の資格が生きてくると思います。

授業は、月曜から金曜まで、すべてビッシリ詰まっています。高度整備実習の他、自動車の先端技術や、故障診断、電子回路の実験まで学んでいます。また、2年生になると、1級試験の難関である『口述試験』クリアを目標に、インターンシップで実際に仕事を体験したりします。
1級はもともと、ある程度整備の現場でやってこられた人達が受けるものなので、非常に難しいのですが、1級小型自動車整備士養成課程となつて、第1回生である3名で、2年間精一杯学び、3名そろって1級合格できるように努力していきたいと思えます。



専攻科
車体整備専攻
庄司 大輔さん

専攻科車体整備専攻に入学して2ヶ月近く経ち、ようやく生活にも慣れてきました。本科で2級合格を目標として2年間頑張ってきましたが、それは違った感じがあります。今までの2年間は本当にあつたという間に過ぎたことを考えると、この1年間はさらに短いものになるだろう。車体整備士という新たな目標ができ、また初心に戻つて頑張りたいと思う。専攻科では、実習が主体であり、また作業も一人でやらなければならないことが多いので自分で考え作業していく中で、知識と技術を学び習得していかなければならない。そして2級整備士と車体整備士というものが全く別物であるということも分かりました。

専攻科での実習では、一つ一つが新しく、今までの2年間とは比べものにならないほど作業が多い。だからこそ自分でやってみるのが重要になってくる。手順などを聞いても実際にやってみなければ分からないことも多く、先生方がよく言っていた「見ているだけじゃ何も分からないし、覚えられない」という意味が分かった。この短い1年という限られた時間の中でできる限り車体に触れ、知識、技術を学び目標である車体整備士

試験の合格のために努力していきたいと思えます。



2年生
杉浦 啓子さん

去年の春、私はこの中日本自動車短期大学に入学しました。入学したときは不安を抱えていて、学校生活に慣れるのに苦労しました。

ここに入学した目的はもちろん、国家2級整備士を取得することです。しかしながら、私は実習の授業で初めて工具と自動車に触れたのでした。自分に来るか不安だつたけれど、先生にゼ口から教えていただき、同じグループの仲間と協力し、こなすことができました。

2年生になって、2級整備士取得に向けてやらなければならないことが増えました。内定を頂いている私は、先生にプレッシャーをかけられています。このプレッシャーに負けないよう強い意志を持ち、勉強をして、自信をつけたいです。そして、夢のため、自分自身のために努力していきたいです。私は、いい友だち、いい先生に恵まれ、楽しく、そして、充実した学生生活を過ごしています。

編集スタッフより

学友会会報23号発刊にあたり、ご協力いただきました方々に心より厚く御礼申し上げます。

登録試験の合格率

技術研修課

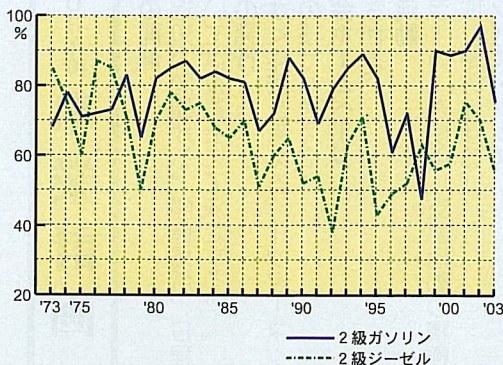
平成15年度、2級整備士登録試験の結果を報告します。

今年度は第36期の学生が3月23日に受験しました。

合格率は二級ガソリンでは76.5%、二級ジーゼルでは56%となりました。

昨年の合格率を大きく下回る結果となりました。前年度の実績から、私どもの心の隅に慢心があったことは否定できません。今年度は早い時期から、登録試験対策に取り組み、合格率90%以上を目指していきたいと思えます。

最後に、学友会の皆様のますますのご活躍とご発展を祈念いたします。



2002年度 収支計算書

2002年8月1日～2003年7月31日(単位:円)

科 目	当 期			前 期 決 算 額
	予 算 額	決 算 額	差 額	
収入の部				
基本財産運用収入	36,000	15,900	20,100	35,780
会費・入会金収入	10,700,000	11,280,000	▲ 580,000	10,770,000
雑収入	10,000	4,508	5,492	177,022
受取利息	7,000	3,318	3,682	7,172
雑収入	3,000	1,190	1,810	610
ソーラーカー補助収入	0	150,000	▲ 150,000	89,400
当期収入合計(A)	10,746,000	11,450,408	▲ 704,408	11,072,202
前期繰越収支差額	24,009,640	24,009,640	0	30,641,598
収入合計(B)	34,755,640	34,460,048	▲ 704,408	41,713,800
支出の部				
事業費	10,860,000	8,095,985	2,764,015	13,555,238
会報制作費	1,600,000	1,559,250	40,750	1,572,375
特別企画費	5,000,000	3,224,008	1,775,992	9,460,160
記念品費	2,150,000	2,119,950	30,050	1,255,800
支部活動費	500,000	72,560	427,440	0
広報費	150,000	82,500	67,500	0
補助金	100,000	50,000	50,000	50,000
福利費	650,000	580,525	69,475	520,000
奨学金	500,000	400,000	100,000	500,000
名簿改訂準備金	200,000	0	200,000	196,903
事業雑費	10,000	7,192	2,808	0
会議費	1,700,000	1,391,952	308,048	1,172,963
総会費	150,000	145,100	4,900	143,800
役員会費	150,000	245,662	▲ 95,662	88,383
役員会旅費	1,400,000	1,001,190	398,810	940,780
事務費	2,620,000	2,284,833	335,167	2,902,161
人件費	450,000	450,000	0	450,000
通信印刷費	1,800,000	1,694,421	105,579	2,256,747
事務用品費	10,000	0	10,000	0
事務機器リース費	160,000	123,480	36,520	166,612
事務雑費	200,000	16,932	183,068	28,802
雑支出	20,000	47,516	▲ 27,516	38,018
慶弔費	10,000	47,516	▲ 37,516	18,018
退職者慰労金	10,000	0	10,000	20,000
基金財産設定支出	18,000,000	0	18,000,000	0
学友会館建設基金	12,000,000	0	12,000,000	0
奨学金積立基金	6,000,000	0	6,000,000	0
運用収入正味財産繰入	36,000	15,900	20,100	35,780
予備費	140,000	0	140,000	0
当期支出合計(C)	33,376,000	11,836,186	21,539,814	17,704,160
当期収支差額(A)-(C)	▲ 22,630,000	▲ 385,778	▲ 22,244,222	▲ 6,631,958
次期繰越収支差額(B)-(C)	1,379,640	23,623,862	▲ 22,244,222	24,009,640

2002年度 貸借対照表

2003年7月31日現在(単位:円)

科 目	1999年度 (A)	2000年度 (B)	増 減 (B)-(A)
資産の部			
流動資産	24,034,555	23,650,889	▲ 383,666
現金	293,716	213,466	▲ 80,250
普通預金	4,785,885	1,479,434	▲ 3,306,451
定期預金	18,954,954	18,957,989	3,035
ソーラーカー遠征仮払金		3,000,000	3,000,000
固定資産	44,526,764	44,542,664	15,900
特定目的資産	42,803,053	42,818,953	15,900
学友会館建設定期預金	27,811,473	27,822,868	11,395
奨学金積立定期預金	14,991,580	14,996,085	4,505
有形固定資産	1,723,711	1,723,711	0
器具備品	1,723,711	1,723,711	0
資産の合計	68,561,319	68,193,553	▲ 367,766
負債および正味財産の部			
負債	14,625	27,027	12,402
流動負債	14,625	27,027	12,402
未払金	14,625	27,027	12,402
正味財産	68,546,694	68,166,526	▲ 380,168
(うち特定目的資産)	42,803,053	42,818,953	▲ 15,900
(うち正味財産増加額)	▲ 6,585,888	▲ 380,168	▲ 6,205,720
負債および正味財産の合計	68,561,319	68,193,553	▲ 367,766

監 査 報 告 書

2002年度(平成14年8月1日～平成15年7月31日まで)の学友会会計に関し、平成15年9月26日に監査を実施しました。貸借対照表及び収支計算書を総勘定元帳及び各種帳票類と照合し監査した結果、適切に処理されておりました。

監査役 吉田豊彦



監査役 榊原和明



2003年度 事業計画

- 総会の開催
 - 大学近辺で開催する。開催場所、日程については役員会にて決定する。
- 会報の発行
 - 見やすく体裁を考へる。インターネットへの移行も考へる。
- 学友会ホームページ
 - 充実させる。
- 支部活動
 - ソーラーカーを使用し支部活動の積極的な取り組みをする。
- キャンパス・グッズ
 - 活用方法を検討する。
- 学園・大学の懇談
 - 理事や大学執行部との懇談会を行う。
- 準会員との交流
 - 準会員への補助を行う。
- 学生自治会クラブ役員との交流会を10月中旬に予定
- 退職者記念品
 - 定年退職者へ記念品を贈る。
- 卒業生記念品
 - 学友会規約を配布する。
- 3000円程度の記念品を贈る。
- 奨学金
 - 在学生に対し奨学金を支給する。
- OBへの福利厚生
 - 長島温泉割引を行う。
- 適切なものがあれば随時考へる。
- 大学への協力体制
 - 学生募集への協力をする。(同窓生子女推薦、ソーラーカー貸出等)
- 大学主催のエコノパワ大会に、学友会として協賛する。
- 江南自動車学校への補助
- その他
 - 35周年記念名簿を作成する。